

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372701021
法人名	社会福祉法人 順和会
事業所名	グループホーム 陽なたぼっこ
訪問調査日	平成 20年 3月 19日
評価確定日	平成 20年 3月 26日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372701021
法人名	社会福祉法人 順和会
事業所名	グループホーム 陽なたぼっこ
所在地	熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字河陽4463番地 (電話) 0967 - 67 - 2515

評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと		
所在地	熊本県熊本市上通町3 - 19 - 402		
訪問調査日	平成 20年 3月 19日	評価確定日	平成20年3月26日

【情報提供票より】(H 20年 2月 25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 23日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	12人	常勤	12人, 非常勤 人, 常勤換算 6人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,000円	その他の経費(月額)	光熱費 4,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	180円	昼食 470円
	夕食	400円	おやつ 100円
	または1日当たり		1,150円

### (4) 利用者の概要( 2月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87, 6歳	最低	77歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 順幸会 阿蘇立野病院	医療法人社団 順幸会
---------	-------------------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雄大な阿蘇の自然に囲まれ、法人施設の廊下でつながって2階建てのホームは存在する。そのため、普段からの交流や緊急時の連携体制と共に、研修体制や資格取得のバックアップ体制も構築されており、入居者や家族に安心感を与えている。本年度から人員を増加し、夜勤は2名体制とし、経験豊富で有資格の職員による質の高いケアの充実を目指している。介護計画作成時の家族の参加への取り組みや、外出行事の増加なども図られており、家族との信頼関係構築に努めている。更なる関係強化や細やかなサービス提供のためにも職員配置の検討が期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	積極的に地域へ出かけ、楽しめる機会をづくりに取り組んでいる。入居者自身で好みのものを購入することで外出への意欲が高まり、暮らしの活性化や生きがい作りや金銭管理の能力維持や、地域の方との交流もでき、成果を挙げている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的については全職員は理解しており、今回の自己評価も職員で話し合い、それを基に管理者2名で更に検討し、自己評価としてをまとめ上げた。評価結果についても、全員で取り組む努力をしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議では、推進会議の意義の説明や、ホームの活動内容等が報告されている。「運営推進会議規程」が作成されており、メンバーからの質問や要望等に関する意見交換がなされているのが確認できた。今後は計画的な運営、メンバー入選の再考やその成果が期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	広報誌や担当者による便りの送付により、家族とのつながりを強化し、面会時も要望や意見を聴く機会としてとらえ、更に意見箱や第三者委員の設置などの環境が整備されており、運営面やケアの質を向上させる取り組みが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の行事には積極的に参加し、交流の支援も図られている。併設施設へのイベント参加や日常的な行き来が地域の方との交流になっている。今後は更にホームから地域へ出かける機会を増やし、福祉拠点としての今後の地域への啓発・貢献が更に期待される。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「ぬくもりと安心の福祉」を基に、開設時に職員で作成したGH独自の「4つの暮らし」を基本理念として掲げている。地域密着型サービス事業所としての理念を再考する計画である。		地域密着型サービス事業所としての役割を含んだ理念の見直しを計画されており、全職員での取り組みが期待されます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念を入居者の立場に立ち、より具体化したものを掲示し、実践に向けて取り組んでいる。会議でも確認しあうようにしている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地上近隣との交流は難しいが、併設施設の行事参加や、デイセンターへの利用者との交流する機会を持っている。また、地域行事の文化祭への参加、地区のスポーツ観戦、小学校の運動会や学習発表会への案内があり、積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は自己評価や外部評価の目的や意義を理解している。自己評価は職員全員で行うことでケアのふりり返りとして捉え、質の向上に努めている。前回評価は全員で検討し、改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在までに1回開催し、ホームの運営・事業計画・行事計画等の報告を議題としている。運営推進会議規程を作成している。		認知症やグループホームの啓発の為にも開催回数や人選の再考が期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設の事業所を含めた法人全体としての連携は図れている。		行政の方が併設事業所に来所される際に、ホームへも来訪されるような働きかけが望まれます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「陽なたぼっこだより」を発行し、担当者からの近況報告を添えて郵送している。希望される家族の方には広報誌は渡している。面会時には詳細な報告を行い、医療受診後及び状態変化があれば電話連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に事業所内の相談窓口・第三者委員を設置していること等を説明している。面会時の会話やホームの玄関に意見箱を設置することにより、家族の意見や苦情の把握に努め運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職に関しては入居者や家族への説明をし、影響がないように配慮している。今年度、夜勤体制強化の為専任の人員を増加したが、その際には日勤帯で勤務してもらいその後、夜勤に入るようにした。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修(年3~4回)やGH内勉強会(年3~4回)を開催し、出来るだけ多くの職員が参加できるようにしている。外部研修にも参加し、報告や資料配布等を行っている。また、資格取得のバックアップ体制も出来ている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年4回開催される地域のGH連絡協議会に参加し、学習会や、各事業所の状況や取り組み等、情報交換や交流の場として活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人や家族の見学やホームとの十分な話し合いや説明を行い、関係構築に努めている。入居時には環境・雰囲気慣れてもらえるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のペースを尊重し、共に日常生活を過ごすことで、自然に喜怒哀楽を表現されている。人生経験を活かした助言を頂いたり、互いに協力し生活できる環境作りに努めている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前や入居時に、本人や家族からの希望や意向の把握に努め、出来るだけ実現に取り組んでいる。困難な方へは、家族と相談したり、職員が表情や素振りから意向を汲み取るようにし、対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が本人や家族の意見や希望を取り入れ介護計画(素案)を作成し、家族、担当者、職員で話し合い決定し完成させている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に半年に1回のモニタリング、認定期間に応じた見直しを行っている。状態変化があれば家族や関係者と話し合い再アセスメントし、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2週間に1回の協力医療機関からの往診や訪問歯科診療、病院受診時は看護師同伴の通院支援等を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医については本人や家族の意向を聞いている。協力医療機関とは、通院や往診、緊急時の対応等、連携が図れている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「看取り指針」を説明し、重度化が予想される場合はカンファレンス等で家族と職員が早急に話し合い、主治医にも報告相談をし、今後の方針・対応を決めるようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の人格を尊重し、プライドを損なうような言葉かけにならないように心がけている。職員間でも言葉かけや対応について注意している。個人情報保護に関しては会議等で話し合い確認している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールはあるが、入居者のペースや体調・精神状態、希望に合わせた柔軟な対応に努めている。外出や散歩等の希望にも出来るだけ対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が献立をたて、定期的に入居者に意見を聴いている。下ごしらえや下膳、御膳拭き、後片付けはできる入居者と共に行っている。職員も一緒に食事を摂っており、親近感が生まれている。		献立作成や食材の買い物等入居者参加が期待されま す。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じて毎日対応している。拒否の方には言葉かけの工夫やタイミングをとらえて支援し、清潔保持に努めている。入居者同士と一緒に入浴されたり、歌を歌われるなどリフレッシュ効果にも役立っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で入居者の能力や生活歴の把握から、役割や楽しみごとの場面提供を支援している(食器洗い、調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、掃除、花の手入れ、古文書整理等)。散歩や併設施設のイベント参加等、気晴らし支援も行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見やショッピング(毎月)等に出かけている。日常的にはドライブや敷地内の散歩、菜園や中庭の草取り等、気分転換や五感への刺激の機会を設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害や身体拘束についても正しく認識しており、日中は玄関、居室には鍵はかけていない。常に入居者の動向を把握するように努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、夜間想定 of 併設事業所の全体避難訓練に入居者と共に参加している。消防署立会いの消火器訓練や消化設備の点検も定期的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食後記録し、水分はこまめに摂取してもらうように支援している。健康状態の把握に努め、状態変化に応じた食事形態や栄養補助ドリンク等の摂取など細やかな対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者に合わせて各ユニット毎に共有部分の空間作りに配慮している。家庭的な雰囲気や季節感を感じられるように、花や写真等が飾られている。随所に椅子やソファが配置され、自由にくつろげる場所の確保がなされている。		換気や臭気への細やかな配慮が望まれます。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用されていた生活用品や家具等が持ち込まれ、居心地の良い居室作りの支援がなされている。畳を敷いたり、整頓された居室があったり、入居者に合わせた支援も行われている。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 陽なたぼっこ
(ユニット名)	あじさい通り(1階)、すずらん通り(2階)
所在地 (県・市町村名)	熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字河陽4463番地
記入者名 (管理者)	緒方 健造 後藤 球子
記入日	平成 20 年 2 月 25 日

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です )

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念である「ぬくもりと安心の福祉」を基に「4つの暮らし」を独自理念として掲げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念をより具体的にする為の話し合いを行うことで共有を図り常に見える位置に理念を掲示し、業務前に黙視し実践に繋げている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に対しては入居の際に理念を明確に分かりやすく説明し、事業所内の玄関、事務所、リビングの掲示はもとよりパンフレットや広報、運営推進会議で地域に広く理解してもらえるように努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地条件的に隣近所との付き合いは難しい面はあるが常にホームとしては開放しており、併設施設との行事案内をしたり、デイセンター利用者の訪問や逆にデイセンターに出向く機会をつくるようにしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる文化祭への出品や見学、地区のスポーツ大会観戦、小学校の運動会の見学や学習発表会の案内があり、積極的に参加するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の中学校の福祉体験や高校(福祉課)、福祉専門学校生の実習受け入れや教育実習生、教職員福祉研修等を受け入れる事で認知症高齢者の理解やケアの向上、人材の育成に貢献していると考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価を踏まえ、改善に取り組み、自己評価をスタッフと共に行うことで質の向上に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の概要、理念、活動報告を行い現状を理解していただくことから始め、今後の取り組み等、率直な意見交換や助言を頂くことでより良い運営、サービスにつなげている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設の特養、デイサービスを含めた法人全体としての村との連携が図れている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護事業の勉強会を行いスタッフの制度の理解に努め、内容を冊子にまとめることで利用者や家族、地域の方の問いにも答えられるようにしている。		現状では利用されている方はいない為か、馴染みのない制度ではあるが関連する制度等を知ることによって質の向上に努めたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護と同様に高齢者虐待防止関連の学習会を行い、虐待の種類や心身に与える影響を知ることによって事業所内での防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書、重要事項説明書により、わかりやすい説明ができるよう努めている。医療連携体制の内容、看取りについての方針も説明し同意して頂いている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>理念である、「4つの暮らし」を基本に日々の生活の中での要望や思いの実現を第一に心掛けている。日常生活での問題や不安・不満を聞く機会を日常的に設けその都度対応している。</p>		<p>入居者の意見がより生活に反映されるように、今後も希望・要望が話しやすい環境作りに心掛けたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>事業所の取り組みや活動は、毎月広報を発行し、各入居者の状況は各担当から広報と一緒に手紙を送付している。家族への報告は、些細なことも面会時や電話による報告を基本としている。金銭管理についても、定期的に書面による報告を行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居契約時に事業所内の相談窓口はもちろん、第三者委員を配置していることや行政の相談受付機関の案内を行っている。事業所玄関に意見箱の設置、面会時の意見聴取に努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々の業務の中や主に会議等で意見交換の場を設けている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や外出、病院受診に合わせた勤務体制を整えており、管理者を含めて状況に応じた職員配置と柔軟な変更が出来るようにしている。</p>		

18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>スタッフの異動に関する入居者への説明はもちろん、異動後も影響が少ないように、まず日勤帯での研修期間を設け、その後夜勤に入るようにしている。併設事業所との異動に関しては、異動前の早い段階から顔見せやコミュニケーションを図る時間を設ける等工夫している。</p>		
<p>項目</p>		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	<p>(印)</p>	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
<p>5. 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	<p>認知症実践者研修の受講、併設施設の勉強会、外部研修の参加に勤めている。認知症ケアは現場で経験し学ぶ事も大切であると考え、その都度相談や助言が受けられる体制が整っている。又併設施設の勉強会による介護福祉士、介護支援専門員と経験に応じた資格取得、ステップアップが図られている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>定期的に行われる地域のグループホーム連絡協議会に参加し認知症ケアに関する情報や勉強会、各事業所の状況、取り組み等情報交換を行っている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>併設施設と実施する親睦会や職員旅行に参加していることや業務等の悩み等相談出来る対象が多くいることは併設施設の利点でもある。環境的にもリビング横にテレビ、冷暖房完備の休憩室が配置され業務と完全に離れる事が出来る空間を設けている。勤務シフトに関しても配慮し働きやすい環境づくりに心掛けている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>法人全体としてスタッフの資格取得について積極的に支援されており、各自が資格取得という明確な目標に向かって努力出来るように勉強会等が実施されている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>認知症の状態も含めて、それぞれに不安や求めている事には違いがあり、表現されること自体難しい場合もあると思われるが、出来る限り本人の思いを引き出すように心掛けている。</p>		

24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期の面談の際にご家族からの思いを十分に聞いた上で、それについて事業所としてどのような対応が出来て、何が出来ないのかを理解して頂く。ご家族の思いを含めた状況を把握する事と事業所の考えを理解して頂く事が関係づくりの第一歩と考える。</p>		
<p>項目</p>		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	<p>(印)</p>	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>基本的に併設の居宅支援事業所と共に初期の見極めを行い、当事業所の入居も含めて他サービスの必要性も検討し対応している。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前の見学等は随時受け入れ可能でスタッフとの関係作りや環境、雰囲気慣れて頂くことを勧めている。すぐにご利用になった場合は状況に応じてご家族の協力を依頼している。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一人一人の生活のペースを尊重しながら、共に活動し過ごす事で、自然に喜怒哀楽を表に出されている。人生経験を活かした助言を頂きながら、お互いに協力して生活できる環境づくりに努めている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と疎遠にならないように、日々の暮らしや体調面での状況等月に一度広報と一緒に担当より近況報告し、情報の共有に努めている。又問題ある場合は随時連絡し共に問題解決を行い、ご家族とスタッフで入居者を支えあう関係を築いている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>入居者とご家族の関係を充分理解した上で支援する事を基本とし広報や近況報告をはじめ、行事の案内を行い一緒に過ごすきっかけ作りも行っている。又キーパーソンだけでなく関係が深いご家族にも広報や案内を送付している。</p>		

30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居前の生活状況を把握しショートステイやデイサービスを利用されていた方には、併設の利点を生かし、同じ地域の方の利用日に面会に行く事で馴染みの関係を持続出来ている。</p>		<p>これまでの生活状況から馴染みの場所へ出かける等の取り組みも行う。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>それぞれのユニットの方々がより馴染みの関係を深める事が出来るように普段から行き来したり、行事にも合同で参加出来るように配慮している。入居者の中にはお互いを必要とし支えあう関係が築けている、しかし過度の関わり合いが逆に疲労になる事もある為さりげなくサポートしている。</p>		
<p>項目</p>		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	<p>( 印)</p>	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>他施設へ移られたり、入院された場合でもスタッフが面会に行き顔を見せたり、馴染みの方々の近況を話したりすることで喜んで頂いている。家族の中には入院、退居されても当ホームに遊びに来られたりすることで情報交換が出来ている。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p>1.一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に、本人や家族から暮らし方の希望や意向を聞き、出来る限り生活に取り入れるようにしている。本人に希望、意向を伝える事が困難な場合は家族と話し合いを進めているが職員も日々の暮らしを見ている中で理解出来ることもあるので、その都度対応している。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に、本人、家族や関係者からこれまでの生活状況や人間関係、社会との関わり、サービス利用状況をフェースシートに記録し全スタッフで確認、把握している。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>現状を把握する為には日々の記録が重要であり、その上で個々の健康状態を把握し、生きがいとされている作業等をその日の状況に応じて負担にならないように支援が出来ると考える。</p>		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族からの意見や希望を事前に尋ね、作成した計画書を、家族、担当者、スタッフで話し合いを行い決定しており、それぞれの意見を反映した介護計画作成に努めている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的に行うほか、病気の進行、退院後のレベル低下、精神状態の変化等生じた場合、家族、関係者と話し合い再アセスメントし、新たな計画を作成している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット毎の全体的な業務日誌(日勤・夜勤)の記入と個別に記録するケース記録の記入を毎日行っている。ケース記録は日勤帯、夜勤帯、プラン内容に関しての記録を色分けし、よりわかり易くしている。ユニット毎に申し送りノートがあり情報を共有することで見直しにも活かされている。		計画に関する、記録の充実を図る事が必要。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関からの往診に加え訪問歯科診療や病院受診時は看護師付き添いによる送迎を基本としている、医療連携体制により夜間も含めて医療面の充実が図れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	併設特養での行事の舞踊、民謡、マジック等のボランティアの個人・団体、中学校のブラスバンド、地域の祭りでの子供みこし、理美容組合の理容奉仕、移動図書館の利用等、法人全体としての関わり、支援をして頂いている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今現在、他のサービスを利用されている入居者はいないが、希望や必要性があってその内容に応じたサービスがあれば対応したいと考える。		グループホーム入居者の生活向上に結びつくサービスがこの地域にどの程度あるのか情報収集に努めたい。



42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターより参加して頂いており、これをきっかけに、情報交換を密に、ケアの向上に努めたいと思っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回往診に来て頂いている系列医療機関と精神科専門病院を協力医療機関として対応して頂いている。通院や往診、緊急時の対応等、連携が図れることから家族も系列の医療機関を希望されており、主治医との関係も良好である。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日々の生活の中での健康管理や認知症に関する症状については主治医に随時報告・相談を行っている。本人、家族から専門医への受診希望があれば主治医より、専門医の紹介等、対応して頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員の配置を行い、介護面だけでなく、主治医との連携、入居者の健康管理、受診時の対応、家族への症状説明等、重要な役割を担っており、医療連携により夜間の連絡体制も整っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は速やかに情報提供を行うことで入院中の支援がスムーズにいこう、又、環境の変化による支障が最小限になるよう配慮している。看護師により定期的な面会を行い主治医、看護師長と情報交換を行い、状態に応じた対応を検討し退院に備えている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針を決定する為に、カンファレンス等のご家族と職員での話し合いはなるべく早く行うようにしており、それを主治医にも報告相談している。		

48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援          重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>看取りの指針に沿って、本人、家族の希望を優先したいと思っている。協力医療機関、かかりつけ医はもちろん、併設特養との意見交換や福祉用具の借入等の支援も受けてみたいと考えている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止          本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>これまでの経過からすると入院もしくは介護保険施設への入所が大半であるが、心身の状況等きめ細かい情報提供を行う事でこれまでの生活の継続が図れるようにしている。</p>		
<p>項 目</p>		<p>取り組みの事実          (実施している内容・実施していない内容)</p>	<p>( 印)</p>	<p>取り組んでいきたい内容          (すでに取り組んでいることも含む)</p>
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>				
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底          一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者を傷つけるような言葉掛けに注意し、さりげない介護に努めるようにスタッフ間でも意識の向上に努めている。会議等で個人情報漏洩防止について確認しているが更なる理解・徹底が必要である。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援          本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者の性格やこれまでの生活歴を把握し、日常生活の行動を受容することで感情の表出を促している。自分で気持ちを伝えられない方や問いかけにも答えられない方には、その時々に応じてジェスチャーやわかりやすい言葉等でコミュニケーションを図っている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし          職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々変化していく、入居者の健康・精神状態を考慮し本人のペースにあわせた対応を基本としており、日課やスタッフの業務に左右される事がないように柔軟に対応するよう心掛けている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援          その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容奉仕にて散髪されたり、入居者の希望に応じて職員がカットしたり、馴染みの美容室に行かれる方もおられる。毎日の服の着替えは季節に応じた衣類を選べる方には選んでもらっている。また外出や行事時に化粧をしたり、ショッピングで好みの衣類を購入したりしている。</p>		
	<p>食事を楽しむことのできる支援</p>	<p>栄養士による献立にてバランスの取れた食事提供を行って</p>		

54	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おり、定期的に献立に関して意見を聞いている。スタッフも一緒に食事をする事で親近感が生まれている。個々の摂取状況にあわせ、食事形態を工夫する事で安全な食事に努めている。また、出来る方には下膳など一緒に行き、状況に応じて出来ない所はさりげなくカバーしている		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の中で普段、煙草や酒類を希望される方はいないが、お祝い席(敬老会・正月)の時にお酒の希望あれば対応している。誕生会の時には誕生者に事前に希望を聞き祝い食としている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンや状況に応じて、声掛けやトイレ誘導を随時行っており、不快感無く、気持ち良く過ごしていただくように対応している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は毎日行っており、入りたい日や希望の時間に出来るだけ入れるように対応している。清潔保持はもちろん気分的なりフレッシュも含めて、気の合う入居者同士一緒に入られ、歌等歌われて入浴を楽しまれている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムを整えるよう日中の活動をうながしたり、昼食後にはゆっくりと休息出来る時間を設けている。自室では眠れない方や人の気配がないと落ち着かない方もおられる為、個々に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の中では食器洗い・洗濯物たたみ・塗り絵・花の手入れ・古文書整理等これまでの生活歴からの情報も得て個々の生き甲斐づくりとしている。文化祭等への展示物作製として、大工仕事や畑仕事・干し柿作り等経験や知恵を発揮できる場を提供し支援している。地域の方の希望で村の歴史や地理についての講話を入居者に依頼があり計画を立て当ホーム談話室で行った。		

60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>毎月ショッピングに出かけ、それぞれ好みのもを購入しているが金額の支払いは、入居者本人が自分で行えるようように支援し、社会性の維持につなげている。お金の所持については、入居者の能力や家族の希望に応じて持ってもらっている</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>行事としてではなく、その日の状況に応じてスタッフと共に薬取り等と一緒に外出しドライブしたり、天気の良い日など東屋や敷地内の散歩、菜園の様子を見に行ったり中庭の花の草取り等々気分転換や五感刺激の機会を日常的に設けている。</p>		

62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	植木市・つつじ見学など季節を感じていただける外出や入居者の希望にて、普段は行くことがない大型ショッピングセンターへの買い物もしている。		外出行事などある時には、ご家族様が気軽に参加できる計画を立てていきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎはもちろんであるが、リビングにある電話をいつでも使えるようにしており、相手の了承を得た上で好きな時に連絡出来るようにしている。知人からの手紙の返事や年賀状等のやり取りの支援も行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	基本的に面会時間は設けておらず都合の良い時間に来て頂けるように配慮している。お茶出しを行い、面会者に応じてリビングで過ごされたり居室や談話室に案内したりと気を使われることなくゆっくり過ごして頂くように心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法令上の具体的な行為は、勉強会等で共通認識とし、安易な拘束は虐待とも捉えることが出来ることや、心身に与える影響を理解することで、身体拘束はしないのが当たり前という考えが定着している。こまめの巡回や、付き添いによるケアに努めている。		定期的な学習や検討会を行い意識の向上に努めたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	普段の生活の中で、日中は玄関、居室と基本的に鍵はかけないが、入居者の不穏や状況によっては一時的に施錠する事が稀にある。夜間は家庭の戸締りと一緒であることを説明し施錠している。		一時的ではあるが施錠しない為の取り組み、対応を第一に考える必要がある。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間共に所在確認は常時徹底する業務であり、居室、トイレ、リビング等ホーム内何処に誰がいるのかをスタッフ間で声掛けしながら把握に努めている。日中自室で過ごされる方もおりプライバシー配慮の観点からも入室時はノックすることや、さりげない安全確認に努めている。		

68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常生活の中には案外危険なものがあり、危険に対する認知低下がみられる方もおられる為、注意が必要な物品は預かる事にしているが作業等を好まれる方もおり、使用目的が適正であるかを常に確認しながら危険なものは個々の対応を基本としている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止に対する環境整備や誤嚥防止の為に食事形態の工夫等、入居者個々の想定される事故については会議等で検討し、緊急対応時のマニュアルも作成している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応策は、マニュアルを作成し、機会ある毎に職員間で確認している。全スタッフが各入居者に応じて想定される危険を予測し、対応できるように心掛けている。併設特養での勉強会にも参加する事で、落ち着いた対応ができるように努めている。		定期的な勉強会を行いより落ち着いた対応に努めたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設特養との火災時の全体避難訓練や、消火器を使った消化訓練を消防署立会いで実施しており、消化設備の点検も定期的に行われている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時やケア会議時、又面会時に今現在の心身の状況を説明し、今後起こりうる状況(転倒、将来的なレベル低下)をご家族には理解して頂くように努めている、又、その後の対応については、専門医の受診やご家族の思いも含めてホームとして出来る範囲の対応を検討することとしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員全員が日常のケアの中で入居者1人1人に常時観察を行い、少しの変化、異常を発見したら申し送りを行っている。必要時には、速やかに受診を行い医師・看護師の指示のもと、適切な対応を心掛けている(1回/2Wの定期受診、その他の臨時受診)		入居者の状態の変化や気付きは申し送りノートを利用して、周知を図っている。

74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的受診また臨時受診により内服処方時には、看護師が全員に対して、服薬に対する注意点等を申し送ることにより、全員で薬の効果・副作用等の変化に注意しながら服薬の支援を行っている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便チェックを行い、入居者1人1人に対して、適切な下剤の量・服用の時刻・水分補給等の対応を行っている。食事はできるだけキザミを避け、水分はオリゴ糖を加える等工夫し、毎日体操の時間を設けたり、散歩にも取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週1回、歯科往診に来て頂いており、Drより適切な指示を受け、毎食後に1人1人に応じたブラッシング方法や専用のブラシを用いた口腔ケアの支援を行っている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の体調・排泄状況・体重変化等、状態に応じた対応をしている。状態によっては、主治医に相談し定期的に血液検査を行い、低タンパク値など見られる方には、栄養補助ドリンクを取り入れる等の支援を行っている。		主治医、栄養士の指導のもと1人1人の疾患に応じた食事援助を行っている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の情報には随時注意し、インフルエンザに関しては全入居者、スタッフ共に予防接種を行い、感染性胃腸炎に対しては、予防レベルとしてマニュアルを設定し取り組んでいる。手洗い・うがいの徹底を基本としている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理については、担当スタッフが配置されており、管理(まな板、ふきんの消毒・食器乾燥機の使用)を行っている。また、食材についても毎日配達があり新鮮な食材が届いており、在庫管理も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはプランターに季節の花を添え、入居者の方との手作りによるウェルカムボードを設置し、入居後は入居者の作品等を展示し、下駄箱には季節の花を飾り来訪を待ち、ふれあい通り、すずらん通りへと続く。特養の利用者やデイサービスの利用者も気軽に訪問されている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は利用者に合わせて2階は静かに、1階は常に人の気配のする空間作りを心掛けている。居間や廊下は季節の花や写真・行事でのスナップ写真を飾り、生活感や季節感を感じられるようになっており、食堂・居間には、長椅子・ソファの配置にて思い思いの場所で安心して寛げる空間となる様にしている。トイレは、プライバシーの保護としての環境面に配慮した工夫を行っている。		生活空間の装飾は季節に応じたものに心がけ、落ち着いた空間作りに努めている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間においては、居眠りをしたり、テレビをみたり、作業をしたり人の気配の中で安らぎを覚えられている。身体状況に合わせて好みの場所に座れるようにソファを配置し自由に過ごすことで精神的な安定にも繋がっている、屋上広場へは好きな時に自由に出入り出来、気分転換が図れる環境である。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたものを持参されており家族との思い出の写真を飾られたり、位牌を持ち込まれたり個性のある部屋となっている。荷物を持ってくると「家に帰れない」と思われる方など考慮して希望に沿った環境を提供している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温調整は事務所で入居者の状態や、その日の天候等により個々に合った温度で集中管理を行っている。他には、濡れたバスタオルを掛け保湿に努めたり、その他消臭の為に消臭剤の使用や寒い時期は入居者がリビングにいる時間を利用して窓を開けての換気とこまめに清掃する等の対応をしている。		
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、トイレ・浴槽・廊下には手すりを配置し、安心・安全に移動が出来る環境である。居室内も畳とベットの部屋と入居者の希望や身体状況等に合わせて用意しており、入居者の行動に応じた安全な家具の配置も行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり	各居室には入居者の目線に合わせた表札を付け、認知でき		



	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	目印には写真や目印に目印した目印、目印がない方には写真を貼る等工夫している。トイレの目印は大きく目の高さに表示し、目の不自由な方には手の感触で判る様に凹凸を用いた表示を自室前や廊下の壁に使用することで自室やトイレへの移動が自立出来ている。		
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には花を植え、屋上広場にはプランターに季節の花を配し花の水遣りを楽しまれたり、畑には入居者の希望も取り入れた野菜作りを行い収穫を楽しみにされている。中庭を利用して、ソーメン流しなどの活動も行っている。		

. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・特養、デイサービスが併設しており、大きな行事への参加、交流、又緊急時の協力体制も整っており、併設のメリットを最大限に活用している。
- ・基本理念の4つの暮らしを基に、自然の中で個々の利用者が伸び伸びと自分のペースで生活できる場を提供している。
- ・経験豊富で複数の資格を持った職員が質の高いケアサービスを提供するための体制を作っている。
- ・利用者の家族又は地域の方が気軽に訪問でき、居心地良く過ごせるよう、暖かい雰囲気を作っている。
- ・四季の花見物、買い物、また日常での畑の手入れ、収穫等、外へ出る機会を多く作っている。